

FT-1500 アドバンススタコメータをEXT入力 (VP-202、FT-0701、電圧) で使用する操作手順

---

FT-1500 アドバンスタコメータを EXT 入力 (VP-202、FT-0701、電圧) で使用する操作手順

VP-202 は動電型振動センサで、コンプレッサーなどの加速度を検出するために使用されます。また FT-0701 はレーザファイバセンサで、ファンなどの測定に使用されます。ここでは、VP-202 や FT-0701 検出器、あるいは外部電圧信号を入力する場合に使用される EXT 入力での測定操作手順を説明します。

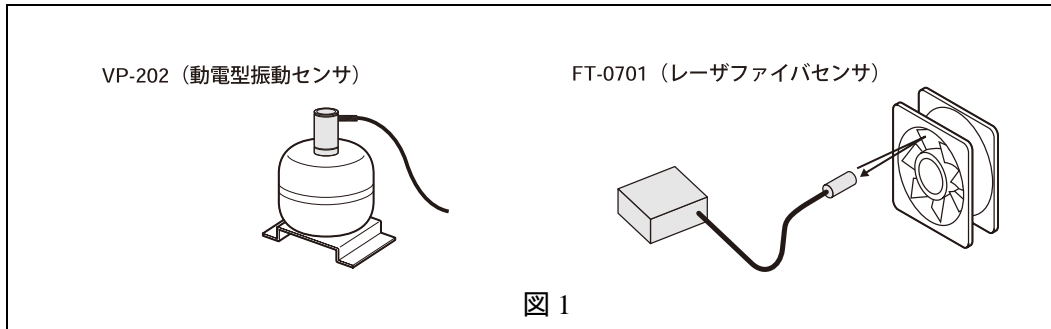


図 1

1. 入力コネクタの選択

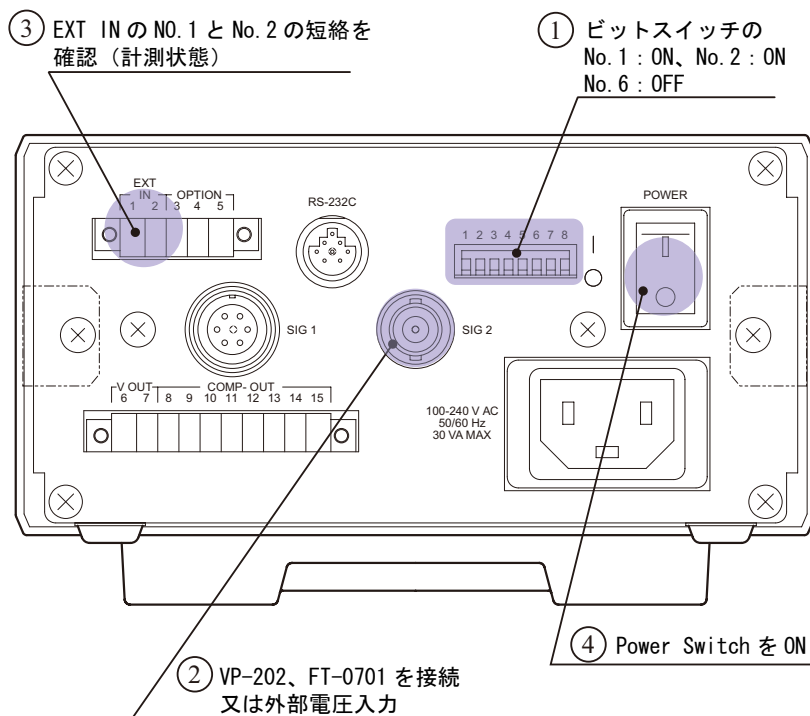


図 2

(1) ビットスイッチの設定

接続する検出器に応じ図2の〔ビットスイッチ〕のNo.1、No.2及びNo.6を次のように設定します。(上記以外は別の機能になります。ここでの説明は省略します。)

ビットスイッチ	設定	意味
No.1	ON	入力切替
No.2	ON	
No.6	OFF	アナログアウト切替

(注意)

V-out 端子から電圧出力されます。No.6 が ON になっていると検出器の入力波形が出力されず(設定モードの CAL 機能が無効になります)。

(2) 「SIG2」コネクタへ VP-202、FT-0701 検出器(または外部電圧入力)を接続します。

電圧信号	最大 ±12V
電圧レンジ	0.05V、0.5V、12V

(3) 〔EXT IN〕ピン No. 1、2 が短絡されていることを確認します。短絡されていないと計測ストップ状態となります。

(4) 〔POWER〕スイッチを ON します。

2. 設定モード関連の設定

図3、図4に前パネルと設定モードに関するインジケータ、ボタン、設定モードの操作の流れを示します。

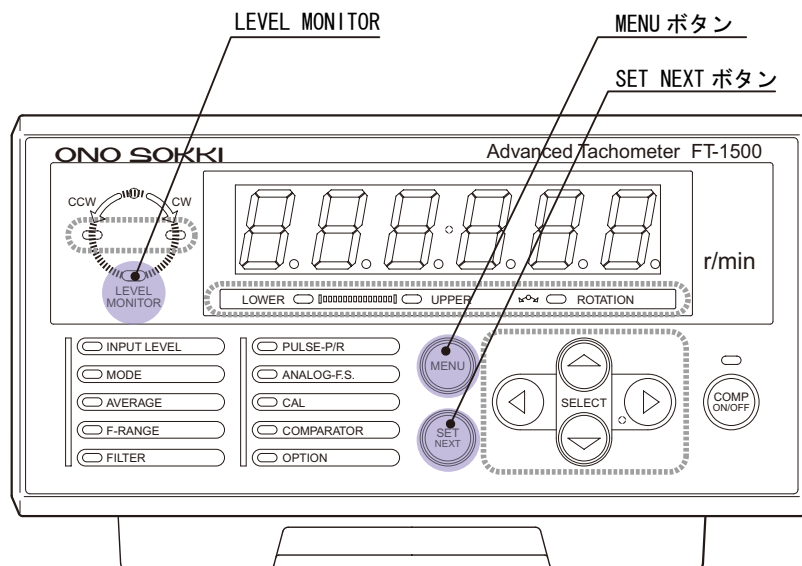


図3

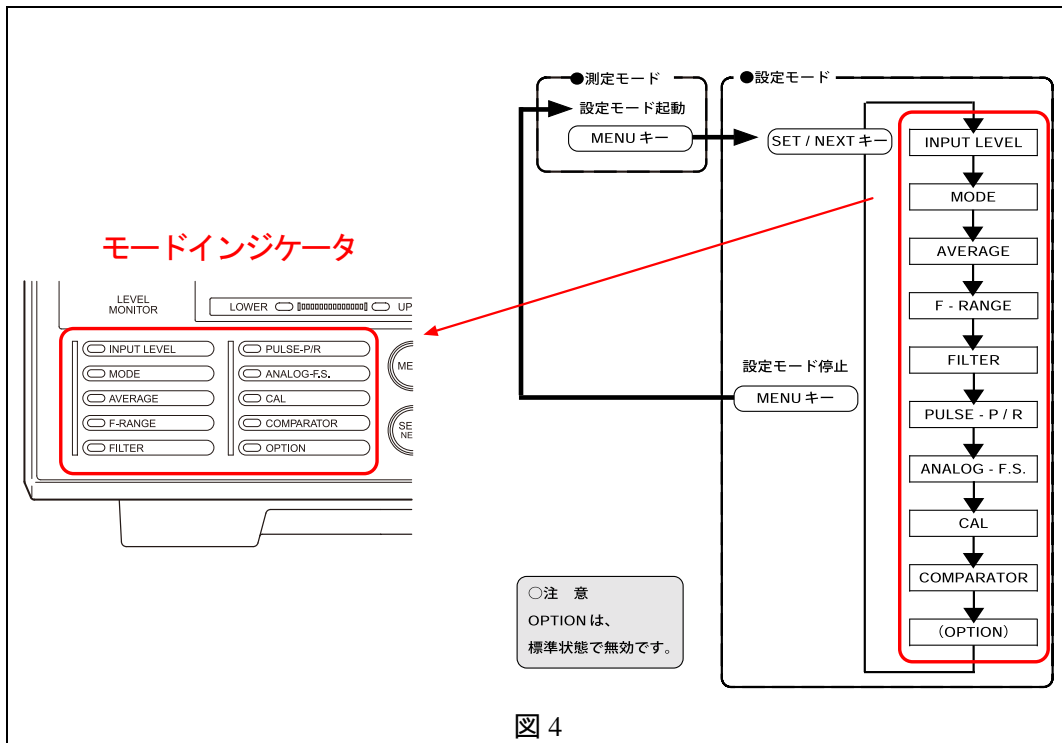
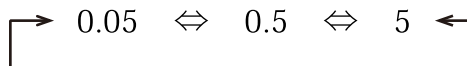


図 4

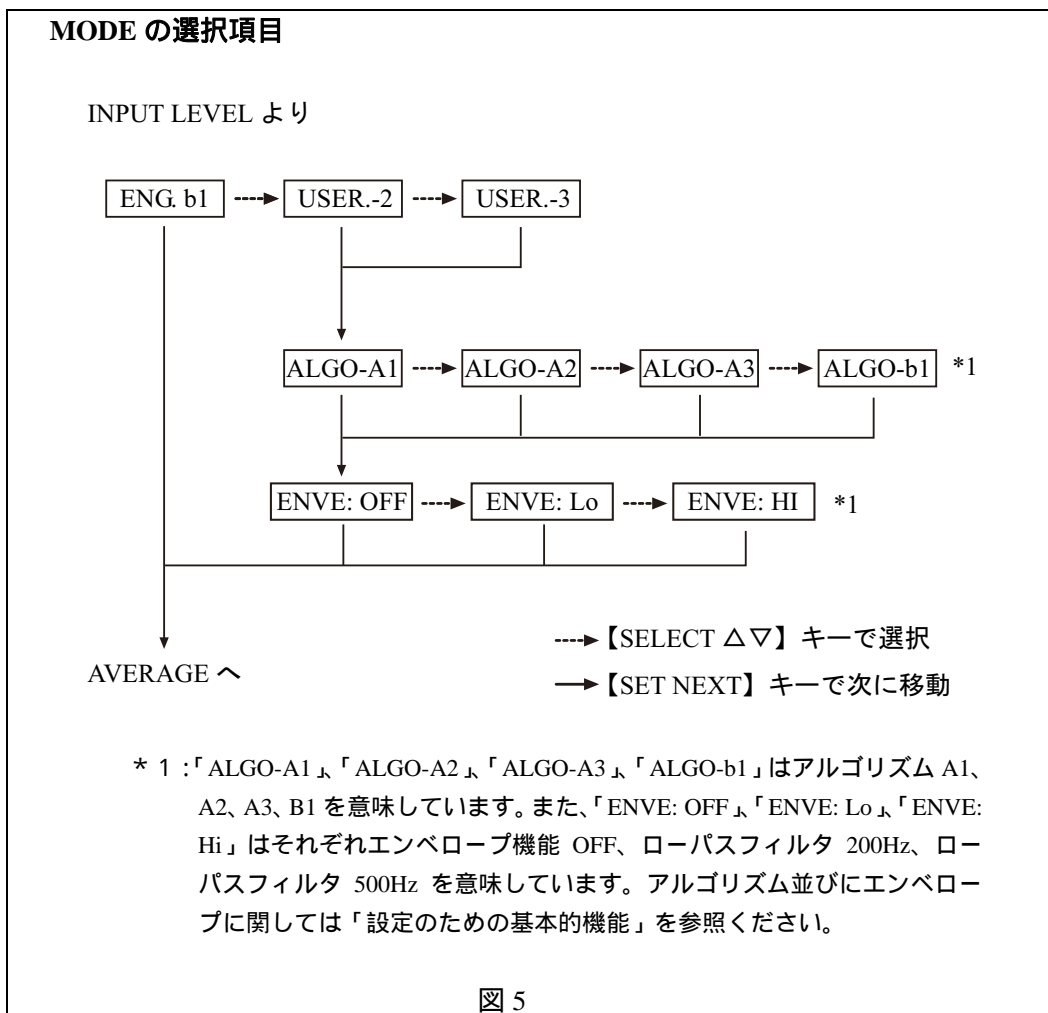
- (1) 初めに、FT-1500 の「[設定のための基本的機能](#)」を参照ください。
- (2) 前パネルの【MENU】キーを押し設定モードに入ります。
- (3) INPUT LEVEL 調整
  - 設定モードに入ると〔INPUT LEVEL〕が緑色に点灯します。
  - 【SELECT】キーを押すごとに次のように〔数字表示灯〕が変わります。入力信号の電圧に合わせて電圧レンジを選択します。「5」を選択した場合、±5V が入力可能です。電圧レンジをオーバーすると前面パネルの〔LEVEL MONITOR〕が赤に点灯します。オーバーしないレンジに設定してください。



- 【SET NEXT】キーを押すと選択が確定し〔MODE〕が緑に点灯します。

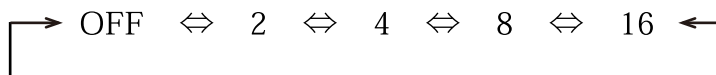
(4) MODE 設定

- [MODE] の設定をツリーとして図 5 に示します。
- 【SELECT  $\Delta \nabla$ 】キーを押すごとに選択項目が変わり、[数字表示灯]に表示されます。
- 【SET NEXT】キーを押し、選択を確定していきます。MODE の設定が終わると [AVERAGE] が緑に点灯します。



(5) AVERAGE 設定

- 【SELECT  $\Delta \nabla$ 】キーを押すごとに次のように [数字表示灯] が変わります。



「OFF」に設定すると平均処理を行いません。測定毎に表示します。例えば「4」に設定すると今の測定を含め過去4つの測定値から指数化平均を実行しその値を表示します。指数化平均の計算方法については取説を参照ください。

- 【SET NEXT】キーを押すと選択が確定し、[F-RANGE] が緑に点灯します。

(6) F-RANGE 設定

- 入力信号周波数を下記式から求め、周波数レンジを決めます。

入力信号周波数レンジを選択するメニューです。  
測定周波数レンジを0.5 (500 Hz) / 2 / 10 kHzより選択します。

選択レンジ	周波数範囲
0.5 kHz (500 Hz)	3.75 ~ 500 Hz
2 kHz	15 ~ 2 kHz
10 kHz	75 ~ 10 kHz

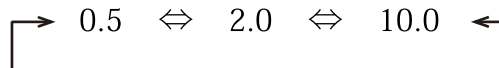
測定範囲は、周波数レンジと設定 P/R 数により変わります。

$$\text{測定範囲 [r/min]} = \frac{\text{測定周波数範囲 [Hz]}}{\text{設定 P/R 数}} \times 60$$

例) 上式に従い、1P/R 設定 / 500 Hz 選択時

$$\frac{3.75 \sim 500 [\text{Hz}]}{1} \times 60 = 225 \sim 30,000 [\text{r/min}]$$

- 【SELECT】キーを押すごとに次のように〔数字表示灯〕が変わります。



- 【SET NEXT】キーを押すと、選択が確定し、〔FILTER〕〔LOWER〕が緑に点灯します。

(7) FILTER 設定

- アルゴリズム A1 を選択した時のみ有効です。〔LOWER〕の下限値を数値入力します。〔数字表示灯〕の点滅している桁の数値は【SELECT】キーを押すごとに変わります。また【SELECT⇄】キーで桁が移動します。

FILTER の LOWER / UPPER は ;

測定したい回転速度範囲を設定します。自動計算で周波数に換算処理され、入力信号から不要な周波数成分を除去し、この回転速度範囲以外では表示が0になります。この機能を使わない場合は次の様に設定します。

下限 : 0、 上限 : 999999

- 【SET NEXT】キーを押すと〔UPPER〕が点灯します。上と同様の操作で上限値を設定します。
- 【SET NEXT】キーを押すと〔PULSE - P/R〕が緑に点灯します。

(8) PULSE - P/R 設定

- 1回転当たりの入力信号パルス数を設定します。

設定範囲：0.5 ~ 199.5 P/R で 0.5 P/R ステップの設定

〔数字表示灯〕の点滅している桁の数値は【SELECT】キーを押すごとに変わります。  
また【SELECT<=>】キーで桁が移動します。

- 【SET NEXT】キーを押すと〔ANALOG-F.S〕が緑に点灯します。

(9) ANALOG-F.S 設定

- アナログ電圧出力のフルスケール値（10V）の回転速度を設定します。

設定範囲：1 ~ 999999 r/min

〔数字表示灯〕の点滅している桁の数値は【SELECT】キーを押すごとに変わります。  
また【SELECT<=>】キーで桁が移動します。

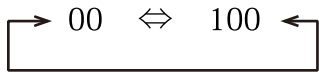
- 【SET NEXT】キーを押すと〔CAL〕が緑に点灯します。

(10) CAL 設定

- アナログ出力のキャリブレーション用信号を出力します。ZERO（0V）と FULL（10V）が選択できます。

（注意）  
〔ビットスイッチ〕の No.6 が ON になっていると設定モードの CAL 機能が無効になり、検出器の入力波形が出力されず。OFF になっていることを確認ください。

- 【SELECT】キーを押すごとに次のように〔数字表示灯〕が変わります。



選択された電圧が直ちに出力されます。CAL モードを抜けると CAL 出力は停止します。

- 【SET NEXT】キーを押すと〔COMPARATOR〕が緑に点灯します。

(11) COMPARATOR 設定

- 上下限設定し、設定値と表示値で比較判定し背面パネル〔COMP-OUT 端子〕より出力します。

LOWER (端子 No.8、9)	: LOWER 設定値 > 表示値で on 出力
UPPER (端子 No.10、11)	: UPPER 設定値 表示値で on 出力

- 下限設定の有効 (ON) / 無効 (OFF) の選択をします。【SELECT   】キーを押すごとに ON / OFF が切り替わります。
- OFF を選択し【SET NEXT】キーを押すと上限設定へ進みます。
- ON を選択し【SET NEXT】キーを押すと〔数字表示灯〕の数値が点滅します。下限回転速度値を設定します。点滅している桁の数値は【SELECT   】キーを押すごとに変わります。また【SELECT<=>】キーで桁が移動します。
- 【SET NEXT】キーを押すと上限設定に移ります。
- 上限設定の有効 (ON) / 無効 (OFF) の選択をします。【SELECT   】キーを押すごとに ON / OFF が切り替わります。
- OFF を選択し【SET NEXT】キーを押すと〔INPUT LEVEL〕が緑に点灯し最初に戻ります。

OPTION は現在用意しておりませんので、パスされます。
-------------------------------

(12) 測定モードに戻る

- 設定モードのどの位置からでも【MODE】キーを押すことにより、設定モードの緑ランプが消え測定モードへ戻ります。

(13) 測定

- 測定モードでは、信号が入力されると直ちに回転速度が表示されます。

(14) 設定モードの変更

- 設定モードを変更する場合は、(2) 項に戻って操作を行います。